

One Shot Cinema 6月のラインナップ

“On Every Tuesday at 7:00 p.m.!!”

2018年よりスタートしました1日1回限定上映、文字通り「1度きり」の上映企画“One Shot Cinema”、5月のラインナップが早速決定いたしました！

毎週火曜日、夜19時～の1日1回限定の上映となります！

【料金】

一律1,400円、シニア・特別会員1,100円

※夜19時台の上映を予定しておりますが、具体的なスケジュールは週により変動いたします。

6/5(火)



『霊的ボリシェヴィキ』

(2017/日本/72分/ 監督：高橋洋)

「霊的」×「ボリシェヴィキ」(ロシア革命でレーニンが率いた革命党派)。霊と唯物論のあり得ない交錯を1970年代に提唱したのは、神道霊学研究家の武田崇元氏。ジャパニーズ・ホラーを主導し、一貫して恐怖映画を追及してきた高橋洋は、20年以上前からこの言葉に取り憑かれ、ついに、かつてないコンセプトによる“心霊映画”を生み出した。主演は、鈴木清順監督『ピストルオペラ』でのデビュー以来、異彩を放ち続ける韓英恵。そして偶然にも、この映画が完成したのは2017年、ロシア革命100周年の年だった……。

6/12(火)



『恋とボルバキア』

(2017/日本/94分/監督：小野さやか)

セルフドキュメンタリー「アヒルの子」でデビューした小野さやか監督が、セクシャルマイノリティの人々をテーマに撮り上げたドキュメンタリー。トランスジェンダー、レズビアン、女装者など8人のセクシャルマイノリティたちの恋愛模様、日常を追い、彼らの姿を通して曖昧で混沌とした性や恋、人によってさまざまな夢、幸せのかたち、生きづらさなどを描き出していく。タイトルの「ボルバキア」は宿主を性転換させる共生バクテリアの一種。プロデュースは佐村河内守を追った森達也監督の「FAKE」、坂本龍一を追った「Ryuichi Sakamoto: CODA」などを手がけた橋本佳子。

6/19(火)



『74歳のペリカンはパンを売る。』

(2017/日本/80分/監督：内田俊太郎)

2016年で創業74年を迎えた東京・浅草の老舗パン屋、ペリカン取材したドキュメンタリー。シンプルを極めた食パンとロールパンの2種類のみを販売しているペリカンは、開店時間の朝8時からすべてのパンが売り切れるまで賑わいが絶えない人気店だ。創業当時は様々な種類のパンを販売していたペリカンの、なぜ2種類に絞ることで不動の人気を築いたのか。4代目店主・渡辺陸さんら関係者へのインタビューや、パン作りの現場、店舗経営の裏側などを通し、あらゆるものづくりや仕事に共通する大切な「何か」を浮かび上がらせていく。

6/26(火)



『息衝く』

(2017/日本/130分/監督：木村文洋)

『へばの』(’08)、『愛のゆくえ(仮)』(’12)と常に社会と個のあり方と関わり、鋭く問題を投げかけてきた木村文洋監督による最新長編。ある政権与党の政治団体でもあり、大新興宗教団体でもある「種子の子」。この映画は、そこで育った二人の男と一人の女を巡る、3.11以降のこの国に生きる、30代の青年たちの物語である。原発・宗教・家族を軸に据え、この社会で、いかにして個として生き続けることができるのかを問うた渾身の長編。この映画を観る者は、ある特殊な生育環境で育った三人の、それでも誰しもが求める生の実感を追い求める旅を通して、この国の抱える根本的な問題を知ることになるだろう。